

備中国 備中高梁

映画『バッテリー』ロケ地めぐり

地域資源∞全国展開プロジェクト

そこに立つだけで、
気持ちが透きとおっていく。



武家屋敷通り



県立高梁高校



芳烈酒造



大福寺



なりわ運動公園



柏木邸



小高下谷川



ループ橋展望台

「背景の山から見下ろす風景は、この映画を象徴する美しさだった」
—映画『バッテリー』監督



高梁商工会議所 たかはしフィルムコミッション

Location Map
本で泣き、
シネマで感動。
そしてもう一度、
ロケ地に立って涙する…。

原作を読んでも、
映画も見えないという人だって、大丈夫。
たっぷりロケ地めぐりで楽しめます。
だって、あさのあつこさんの
小説『バッテリー』を愛する
監督やスタッフのみなさんが、
FCのメンバーと一緒に本気になって
歩きまわって見つけた、
とっておきの場所ばかりなのですから。

これは
どこのロケ地？
◎ロケ地プレートを設置。
たかはしFCでは、映画『バッテリー』のおもなロケ地にそれぞれデザインが違うガラス製プレートを設置しています。どれがどの現場かは、巡ってみてのお楽しみ…。



滝田監督からのメッセージ。

映画『バッテリー』のロケハン中ある事に気がついた。岡山の地方都市はカメラをどの方向に向けても、その背景に山が映る場所が多いです。とりわけ高梁市は、しっとりとした佇まいを持つ城下町と山の距離感が抜群に良く、同時に背景の山の上から見下ろす風景はこの映画を象徴する美しさでした。
高梁市はバッテリーの重要なロケ地となり、町の人達はとても暖かく迎えてくれました。そしてなによりも、たかはしフィルムコミッションの皆様の、熱い思いと情熱に、映画と地元への強い愛を感じ、映画に勇気を与えてくれました。
これからも素晴らしいドラマが生まれる場所だと思います。
又、探りに行きます。
滝田洋二郎

◎ランチタイムに“ロケ弁”はいかが？



真夏の猛暑のもとでの撮影中、出演者やスタッフのみなさんを、FCとともにサポートしたのがロケ弁！ 飽きないように、魚バージョンと肉バージョンを用意して提供しました。



ロケ弁の一例

スタッフの
パワーの
源です！



「まちなか産業観光」と
セットで、楽しさ倍増！
ロケ地めぐりと合わせて、高梁のまちに根ざしたものづくりや高い現場をたずねて回る、まちなか産業観光でお楽しみください。巧や豪、そして仲間や家族たちが暮らすまちの息づかいが感じられ、気どらない土産も見つかるはず…。お問合わせは高梁商工会議所まで。

平成19年度地域資源∞全国展開プロジェクト
映画『バッテリー』ロケ地めぐりマップ
企画・発行/高梁商工会議所
たかはしフィルムコミッション
編集・制作/CLEAR WATER 赤澤雅弘
※掲載した写真、文章等の無断転載を禁じます。



【お車をご利用の場合】
●岡山自動車道・箕輪ICから約15分
有漢ICから約25分
●岡山空港から約50分
【JRをご利用の場合】
●JR伯備線・備中高梁駅下車
岡山駅から普通列車で約50分
(特急で約35分)
倉敷駅から普通列車で約35分
(特急で約23分)

映画『バッテリー』
ロケ地めぐりのお問合せ
高梁商工会議所
〒716-0033 岡山県高梁市南町16-2
Tel.0866-22-2091
Fax.0866-22-2099

スーッと気持ち透きとおっていくような映画『バッテリー』のロケ地、備中高梁です。

映画『バッテリー』のロケは、高梁のまちにたくさんの贈り物や想い出を残していつてくれました。なかでも、いちばんの贈り物は、ふだん見逃していた何でもない風景が、実はこんなに素敵だったんだと気づかせてくれたことかもしれません。その「感激」を、今度は私たちからみなさんへ！備中高梁での映画『バッテリー』ロケ地めぐり…。申し訳ありませんが、かなり感動的ですよ。

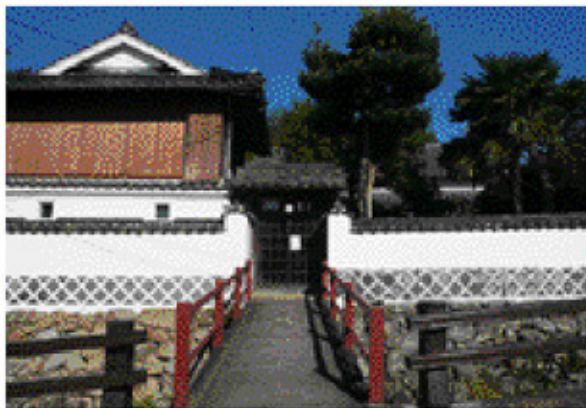
「バッテリー」ロケ地めぐりは、ここから！

SCENE #01 【おろち峠の見晴らし台】(ロケ地:ループ橋展望台)

新田市に引っ越してきた原田巧の一家が峠の展望台に車をとめて、これから新しい生活が始まる町並みを一望するオープニング場面。もちろん高梁での映画『バッテリー』ロケ地めぐりも、ここからスタートですよ。 ※おもな登場場面 0:02:28~0:03:16

SCENE #02 新しいわが家 【巧の家】(ロケ地:柏木邸)

巧たちが引っ越してきた祖父の家は、白壁の塙と厳格な門構えの旧宅。小さな川をまたぐ短い橋が門へと続きます。祖父がかけた新しい喪札(複製)や、豪と仲たがった夜にも温かく迎えてくれた丸い門灯も、あなたをお出迎えしてくれますよ。



※おもな登場場面
0:03:17~0:03:20
0:08:19~0:08:52
01:04:14~01:04:17
01:27:36~01:28:05

SCENE #03 青波のまなざし 【兄を見つめて】(ロケ地:柏木邸前)

兄・巧と豪を、石畳の川床から憧れの目で見上げる青波。ところどころに川床へおられる階段があります。お気に入りの場所が青波クンの目線になってみましようか。



<FCちょっといい話>
小高下谷川の流れ、小さな橋、古風な門構え…。ロケハンで案内していたとき、「あ、ここいいね！」のひとことで決まりました。



観てからめぐるか、巡ってから観るか…。

【作品紹介】
累計1000万部突破の大ベストセラーとなっているあさのあつこの同名原作を、ヒットメーカー滝田洋二郎監督が特選の映画化。高梁市など全編岡山ロケのもと、野球にすべてを捧げる少年を主人公に、その家族、兄弟、クラスメートたちの絆をみずみずしいタッチで映し出す珠玉の感動作です。

『バッテリー』特別版DVD発売中！
原案:あさのあつこ
監督:滝田洋二郎
発売元:角川映画
販売元:清川エンターテインメント
定価:3,990円(税別)

※各ロケ地の登場時間、「バッテリー」特別版(DVD)での目安を表示しています。

豪の、いちばん大切な場所



SCENE #07 【山の上公園】(ロケ地:なりわ運動公園)

巧の歓迎会を開いたのも、巧との信頼の絆を取り戻すため二人だけで投球練習をしたのも、まちと川を見下ろすこの緑の丘でした。いつも、巧の心をしっかり受け止めている愛用のキャッチャーミットのように、豪の想いを受け止めてくれるいちばん大切な場所なのかもしれませんね。

※おもな登場場面
0:18:52~0:20:20(歓迎会シーン)、
01:36:53~01:40:12(二人の投球練習)

<FCちょっといい話>

運動公園の野球場に案内した時、遊歩道を見つけたスタッフ。たどっていきついたのがここでした。FCのメンバーも、その先にこんな絶景スポットがあるとは気づきませんでした。

SCENE #04 まっすぐのびた美しさ 【青波を探しに…】(ロケ地:武家屋敷通り)

夕方になっても帰ってこない青波…。心配になって探す母が、練習帰りの巧や豪たちと出会うシーン。まっすぐのびる武家屋敷の通りをお互いの目線から交互にとらえ、その凛とした美しさが印象的でした。

※登場場面 0:30:14~0:30:41



SCENE #05 緑の風になる坂道 【自転車に乗って】(ロケ地:小高下谷川の坂道)

緑につつまれた川沿いの坂道を、二人乗りで風のように下る自転車。兄の腰にしがみつく青波の手には、軟式ボールがしっかりと握られていました。備中高梁山道への登山道入口あたりで撮影されました。

※登場場面 0:24:36~0:24:55



SCENE #06 「野球は“する”ものです」 【橋の上で…】(ロケ地:小高下谷川の橋)

「野球はさせてもらもんじゃなく、するものです」…。豪の母から野球をやめるよう言ってくれと頼まれた巧の熱いセリフは、この橋の上で口にしたんです。 ※登場場面 0:24:56~0:25:53

こころげだに

○小高下谷川を歩く
道から見下ろせば巧の気持ちになり、川床におりれば青波の笑顔になれる場所。流れに沿って坂を歩けば、小さな橋が次々と現れます。



SCENE #13 なぜか、胸がきゅんとなる 【矢島家の家】(ロケ地:芳烈酒造)

夜、クラスメートの蘭が自宅から巧に電話をかける場面。何でもない会話なのに、なぜか胸がときめいてくるから不思議です。 「みなさん、蘭が電話をかけてたのはどこですか?って尋ねられて、記念撮影されるんですよ」とは、芳烈酒造の奥さんのお話です。

※登場場面 0:43:26~0:45:33



<FCちょっといい話> 説明なしで職業がわかる現役の商家…。それが蘭の家選びの条件でした。年季の入った造り酒屋さんは、まさにぴったり。スタッフのみなさん、ロケ後も芳烈酒造の「古酒」ファンになったようです。

SCENE #11 踏切をわたって 校門へ

【新田東中学校・登校シーン】(ロケ地:県立高梁高校)

軽やかなリズムを刻む警笛、走り去る列車。警笛がやむと踏切をわたり校門に続く石段を登っていく生徒たち…。なんとなくお城の登城シーンのような雰囲気は、お殿様の御殿(御根小屋)跡だから。校内への立ち入りはできませんが、付近は散策にもってこいのロケーションです。

※登場場面
0:33:37~0:34:54
(登校シーン)



<FCちょっといい話> 遠慮のない踏切と学校に続く石段の美しいコントラストが決め手、ロケの多くを高梁で行うきっかけになりました。

SCENE #14 サワの巨木 【チームメート沢口の家】(ロケ地:大福寺)

チーム一のひょうきん者サワの家は高台にあるお寺、展望台からもはっきり見える大きなケヤキの木が目印です。学校を休んだ日に巧や豪たちが訪ねてきたときも、その木に登ってまちを見つめていました。

※おもな登場場面 0:55:26~0:57:47

<FCちょっといい話>
原作ではイチゴ農家でしたが、大福寺の巨木が気に入って映画ではお寺の息子という設定になりました。

映画『バッテリー』からの贈り物

いくつかのロケ地には、さりげなく制作スタッフからの置き土産が…。

■公園のベンチ
撮影終了後、たかはしFCで映画と同じレプリカを作り設置しました。

■体育委員の貼り紙
マーカーで手描きされた貼り紙、撮影当時のまま“展示”(?)されています。

■体育館の木製階段
木製の階段も、実はスタッフのみなさんの手作り。

■酒樽
蘭の家にとりし座った酒樽。美術スタッフがひと晩で作り上げた傑作です。

■直筆サイン
巧と蘭の直筆サイン、芳烈酒造でお出迎えしてくれます。



SCENE #12 負けられない…。 【新田東中学校・第二用具室】(ロケ地:県立高梁高校体育館)

野球部の先輩たちに暴行を受けるシーンの撮影は、高梁高校の体育館で行われました。貼り紙や木の階段など、スタッフ手作りの小道具がそのまま残されているんですよ。 ※おもな登場場面 0:51:59~0:54:04、0:59:41~1:02:52

モデルコース

1 完全版コース

ループ橋展望台→成羽川土手・河川敷→なりわ運動公園→大福寺→市職員駐車場→県立高梁高校周辺(踏切、石段など)→柏木邸→武家屋敷通り→小高下谷川の橋→小高下谷川の坂道→芳烈酒造

2 まちなか版コース

JRで来た方へ
JR備中高梁駅→(タクシー利用でループ橋展望台を見学)→市職員駐車場→県立高梁高校周辺(踏切、石段など)→柏木邸→武家屋敷通り→小高下谷川の橋→小高下谷川の坂道→JR備中高梁駅

JRで来られて、市内中心部のロケ地だけを回りたいという方におすすめのコース。余裕があれば、タクシーを利用してループ橋展望台まで足をのびしてみてください。